

仲善支部 活動報告

1 研究主題

生き抜く力を育むためのメディア教育の在り方

内容：各校の実践事例研究・メディア機器の活用研修

2 はじめに

各校の ICT 機器を活用した実践は近年充実しており、ICT をただ使えばよいという段階から、いかに効果的に利用するかという段階に来ている。今の生徒が生まれたときすでにインターネットがあり、小学校低学年時にスマートフォンが登場した世代であり、タブレット PC が生まれながらに身近にあった世代が生徒となる日も数年以内に訪れる。それだけでなく今後 ICT の社会への普及はより一層加速することが予想される。そのような時代におけるメディア教育はまさに研究主題の通り、「生き抜く力」を育むために必要な要素と言える。そこで、前年度に引き続き研究主題を上記のように設定した。本年度は各校の実践事例研究だけでなく、情報モラル教育や ICT 活用の校内使用規定についても各校の実践例を募り、研究を進めた。

(2) 実践事例

① 授業での活用事例

授業における ICT 機器を活用する場面はかなり増えている。技術科では常にコンピュータ室で応用ソフトウェアを活用して授業実践を行っている。美術科でも専用のソフトウェアを利用して、作品制作を行っている。英語科では、リスニング練習に動画サイトを利用したり、理科では実験や観察の難しいものを動画サイトを利用して見せている。その他にも集団に対してプレゼンテーションを行う時に、コンピュータとプロジェクターを利用する等さまざまな教科で、ICT 機器を積極的に活用している。

ア 体育実技での活用事例

ハードル走や水泳のターンの練習の時にタブレット端末でその様子を録画し、後でその動画を確認して課題を発見、確認するという学習を行った。

3 研究内容

(1) 研究の過程

① 4月28日(木)

香中研仲善支部総会

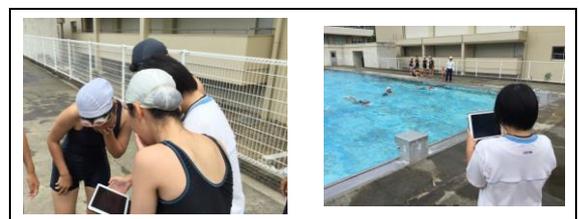
場所：善通寺市立西中学校

内容：研究組織の編成・研究主題の設定・研究内容の検討

② 7月27日(水)

香中研仲善支部教科外研究会

場所：まんのう町立満濃中学校

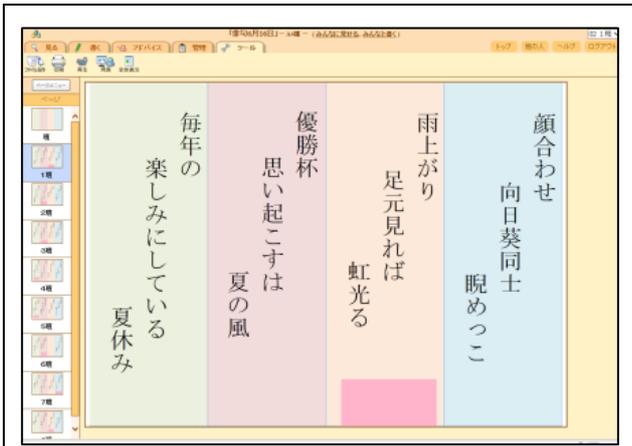


水泳のターン練習時にタブレット端末を利用する様子

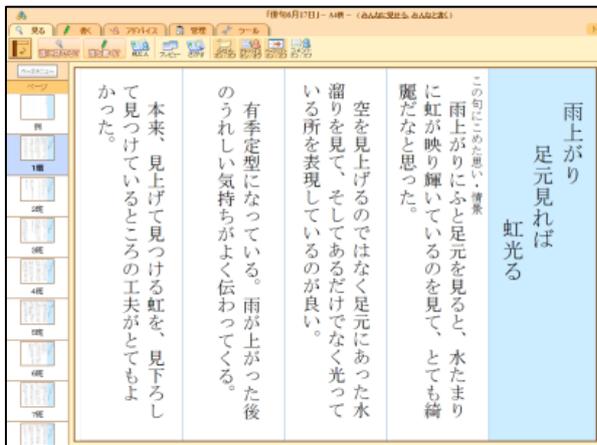
イ 国語科での活用事例

「俳句を創作し、句会を開こう」

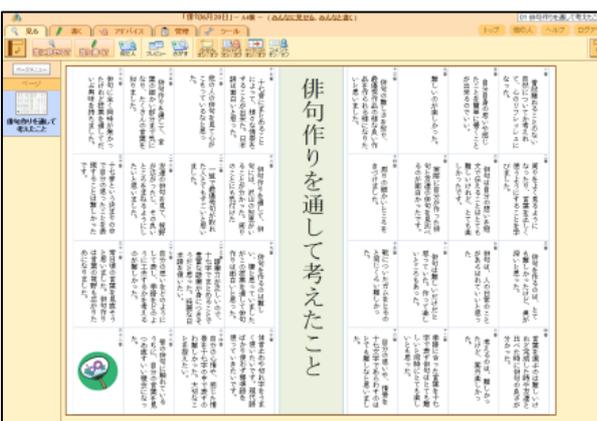
協働学習支援ソフトを使用して、感想を交換、共有できる句会を開いた。



A 俳句を作って入力し、句会を開く。グループで読みあつて最優秀を発表する。



B 作品にコメントを入力する。表現上の工夫や、込められた思いに注目してコメントする。

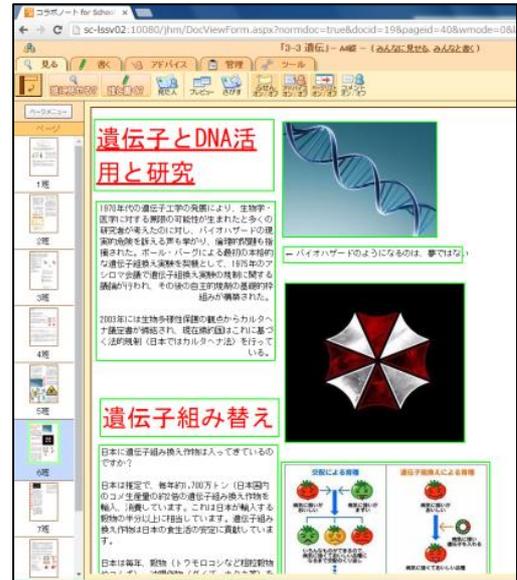


C 振り返りとして考えた事を入力する。全員の意見を一覧として見る事ができる。

ウ 理科での活用事例

「遺伝子についてレポートをまとめよう」
協働学習支援ソフトを利用し、ネットワーク上の模造紙にレポートをまとめ

させた。生徒それぞれが1台のコンピュータを使い、ネットワーク上の模造紙に、グループごとに同時にまとめた。



② 特別活動等での活用事例

ア 講演会での活用事例

講師を招いて講演をしてもらう際、講師者はICT機器を活用して講話することが多い。話を聞くだけでは伝わりにくい情報を、画像や動画、音声などに訴える事でよりわかりやすくなる。また、箇条書きでスクリーンに映し出すことで印象に残りやすく、生徒の感想にも学習理解が深まる変化があった。



講演会でスライドを使って説明する様子

イ 集会での活用例

全校集会では、校長先生からプレゼンテーションソフトウェアを利用して行事や部活動での生徒の活躍の様子を紹介している。生徒は自分たちの仲間が一生懸命に活動し、活躍している姿を興味深そうに見ており、途中で出てくる校長先生からのメッセージも注目して見ていた。

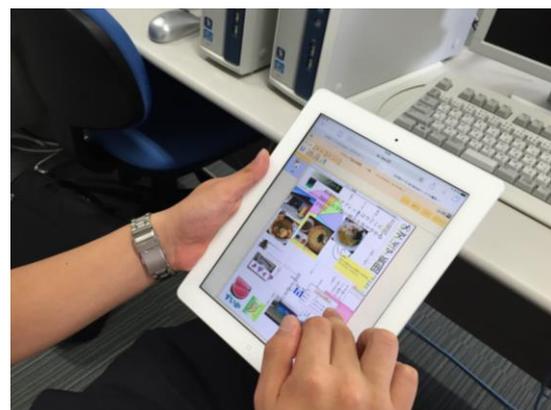


(1) 実技研修

共同支援ソフト「コラボノート」

コラボノートはノート（模造紙）をネット上で共有するというものである。模造紙の上に生徒全員で書き込んだり付箋を貼ったりするのと同じ状況をPCで行うことになる。ネット上なのでリアルタイムで情報が更新され、全ての端末でそれが確認できる。生徒は個々に1台の端末に向かうことになるが、電子黒板等に映し出すことによって、全体を黒板の方に集中させまとめるを行うこともできる。書き込んだ内容は更新されて初めてわかるので、書き込む内容や、相手がどのように受け取るかなど、事前に情報モラル等の指導が必要である。

教科外研究会では、メディア部会で実際にコラボノートを利用して新聞作りの実技研修を行った。本アプリの長所である、多数のメンバーが同時に同じ画面の編集を行えるという長所と、不適切な内容でも、アップされると同時に見てしまうという危険性を体験した。



(2) 情報モラル教育・ICT（タブレット機器）の校内使用規定について

① 情報モラル教育

多くの学校で技術科での情報教育や、外部講師を招いての情報モラル講演などを通して、情報モラル教育を行っていた。最近では、スマートフォンを所有する生徒が増えており、ラインやメールで情報をやりとりしたり、インターネットを利用して物品売買をしたりするものが増えている。このようにスマートフォンを持つことで、ネットの世界に繋がる生徒が増加し、それによる被害やトラブルも増加している。特に自分の正体を明確にせず他人を中傷するような内容をネット上に書き込むことによるトラブルが多い。この点からもより充実した情報モラル教育が重

要視され、これからの課題といえる。

③ ICT 機器（タブレット端末）の校内使用規定について

校内使用規定については、保管、使用、教師の使用上の注意点、生徒の使用上の注意点などが考えられるが、各校によって違いが見られた。今後安心・安全に活用するためにも、より一層の充実が必要である。

使用規定の策定、徹底などの面での研究が必要とされている。

3 成果・課題

実践事例を研究していくと、授業でのさまざまな形態での ICT の活用が見られ、教師のアイデア次第でまだまだ活用の可能性があると言える。また、コンピュータ、タブレット、プロジェクター、テレビ、電子黒板など、複数の ICT 機器を駆使した実践事例も見られ、授業の目的に合わせた効果的な ICT 機器の組み合わせ、活用もまた、発展の可能性があると思われる。

前述したように、現在の生徒は幼少時より ICT に親しんでいる世代である。タブレット PC などを日常的に使用している生徒も少なくなく、教師よりも扱いに慣れている場合もある。そのため、授業で使用した時に、設定を勝手に変更されることもあり、毎時間の端末のチェックや、セキュリティの強化の必要がある。そのため、作成した教材を端末で利用することに困難が生じたり、新たなアプリケーションを探すこと、導入することに手間がかかるという指摘があった。今後の課題として、便利なだけでなく、より安全・安心で、扱いやすい活用方法を研究していくことが課題である。合わせて、生徒への情報モラル教育や、ICT